



旧約講解⑩サムエル記第二【神様に喜ばされる人生の優先順位】
今日の聖書本文:サムエル記第二7:1-9節・暗唱聖句:サムエル記第二7章29節

説教者:鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

今日は先週に続いて第二サムエル記を本文にしたいと思います。

先週、第一サムエル記はエリ祭司の時から、サウル王の即位（そくい）とサウル王の死までの歴史が記録された御言葉だと申しあげました。

旧約聖書の10番目に出てくる第二サムエル記は王になるダビデと彼が40年間治めた歴史的内容が記録されています。第二サムエル記ではダビデ王の一代記（いちだいき）と呼ばれるほどイスラエルの統一王になったイスラエルのダビデ王中心に記録されています。サウル王が死んだ後、ダビデは南ユダを治める王としてユダのヘブロンというところ中心に7年半間治め、そしてすべての内乱をおさえた後、ついに全イスラエルの統一王としてエルサレムを中心に33年間治める歴史が記録されているのが第二サムエル記です。

今日の本文ではダビデ王がイスラエルの統一王国を立てた後、一番にしたことは何であったのかを考えることにより今日の教訓として適用して行きたいと思います。

<すべてのことがうまくいけたとき、ダビデが統一イスラエルの王となる>

始めの本文は第二サムエルの7章の内容です。

“王が自分の家に住み、主が周囲の敵から守って、彼に安息を与えられたとき”（第二サムエル7:1）という内容から始まっています。いつからこうなったのでしょうか？第一サムエル記はイスラエルの始めての王であったサウルの死で締めくくります。サウル王が死んだ後、ダビデが王にはなりますが、すぐ全イスラエルの王になったわけではありません。なぜなら、ダビデが始めからイスラエル全部族の支持を得られなかったからです。

ダビデはまずイスラエルの南ユダの支持を得てヘブロンで王になったのですが(1-4章),サウル王家（おうけ）は自分たちの既得権をあきらめないで、むしろダビデの王権に抵抗しつつ認めようとしませんでした。特にサウルの軍隊将官（ぐんたいしょうかん）だったアブネルはまだ生き残っていたサウルの四番目の息子であるイシュ・ボシエテを王にしようとしながらダビデと戦っていました(第二サムエル2:8)。

この時、ダビデが南のユダ部族の支持を得てヘブロンで王になった時が30歳でしたが、それから7年6ヶ月の間、ユダの王でした。それでしばらくイスラエルの中は二つに分かれ、分裂と内戦が続いたのです。

当時、南ユダのダビデの将軍はヨアブであって、ダビデに従って、結局反逆を起こした将軍アブネルとイシュ・ボシエテを破りすべての内乱は終わりました。それでついにダビデはイスラエルの全部族の支持を得て統一イスラエルの王位につくことになりました。

それだけではなく、エブス族からエルサレムを取り戻し、そのエルサレムを統一イスラエルの首都（しゅと）にしました。そういうわけでエルサレムは今日に至るまでダビデの町とも言われているのです。そして、さらにイスラエルをいつも狙っていたペリシテも追い払ってついに強力な統一王国を立てたのです。

まもめてみると、ダビデはイスラエルの内乱を治め、国家的な統一をさせ、エブス族に奪われたエルサレムを取り戻し、イスラエルをたえず、攻めて来るペリシテ人まで追い払うことができました。そして、アビナダブの家にあった神の契約の箱連れ戻すことにより、すべての問題が解決されました。

この時がさきほど読んだ7章1節の“（ダビデ）彼に安息を与えられたとき”時を言っているのです。

<ダビデが統一王になった後、初めにした事：まず神の事、神の家を！>

やっとすべての問題を乗り越えて、統一イスラエル国家の王となって平穩になった時、ダビデが一番先にしたことは何でしょうか？それが今日の本文7章2節以下に記録されています。“王は預言者ナタンに言った。「ご覧ください。この私が杉材の家に住んでいるのに、神の箱は天幕の中にとどまっています。」”

ダビデ王は自分はレバノンから輸入した杉材(cedar wood)の宮殿に住んでいるのに、神様の臨在を表す神の契約の箱はあの布で作られた天幕にあることがとっても気がかりだったのです。そういうわけで統一王国になってすぐ、まず一番に神様の宮を建てたがっていました。

当時いくらイシュ・ボシエテとアブネルがいなくなったとしても、ダビデ王にはつねに反対勢力があったはずですが、それにもかかわらず、ダビデは自分の王権を固く立たせることに優先をおきませんでした。自分が統一王国の王になったことを記念する碑石（ひせき）を作ったり、自己功労を表しませんでした。むしろ、彼は自分のした事より神様の事を優先的に考えていました。その時、彼が37歳でまだ若い年だったのにもかかわらず、神様に対する信仰と心構えは誰よりも深かったことが分かります。

さっそくダビデ王は神様の宮を建とうとする意志を預言者ナタンに伝えます。それをナタン預言者が神に伝える時、

神はナタン預言者にこう答えて下さいます。4節以下の御言葉をみてください。“その夜のことである。次のような主のことばがナタンにあった。「行って、わたしのしもべダビデに言え。」と言われます。続けて神様はこう言われました。“わたしがイスラエル人のすべてと歩んできたどんな所でも、わたしが、民イスラエルを牧せよと命じたイスラエル部族の一つにでも、『なぜ、あなたがたはわたしのために杉材の家を建てなかったのか。』と、一度でも、言ったことがあるか。”と神様は喜ばれました。

神様はダビデが王になった後、まず神様の宮を立てようとするのを喜び、ダビデを祝福されます。それが8節以下に書かれています。

“今、わたしのしもべダビデにこう言え。万軍の主はこう仰せられる。わたしはあなたを、羊の群れを追う牧場からとり、わたしの民イスラエルの君主とした。”9節，“そして、あなたがどこに行っても、あなたとともにおり、あなたの前であなたのすべての敵を断ち滅ぼした。わたしは地上の大いなる者の名に等しい大いなる名をあなたに与える。”

神様がどんなに喜ばされたのか、ダビデにさらなる祝福を約束されたのです。王になったと言って自分の権力をふりまわさず、自分の王権を確立させるのにもっと最優先を置かないで、“私はいま杉材の宮に住んでいるのに、神様の箱はあの幕屋においてある”と言いながら、まず神様の宮を一番先に考えているダビデの心の中心と姿を見ておられ、神様は大いに喜んで下さいました。

そんなダビデに向かったの神様の祝福の御言葉は9節以下にも続いています。また16節をみてください。

“あなたの家とあなたの王国とは、わたしの前にとこしえまでも続き、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。”この御言葉の意味は神様はダビデとの祝福の約束だけではなく、ダビデの子孫としてイエス・キリストが来られることを約束されます。そういうわけでこの聖句を神がダビデと結んだ“ダビデ契約”とも言われていますが、これは、神様の国の永遠性を言います。つまり、神様はダビデとその子孫を通して働かれる事を約束されたのです。これがまさにダビデが王になってから一番にしたことです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

我々が物事がうまく行っている時、高い地位につき、大きい業績を残し、ビジネスに成功し、たくさんの富を得たとき、我々がどうすれば神様は我々の人生をさらに喜んで下さると思いますか。それは何だと思われませんか。ただ自分の成功、満足、幸せだけを味わい、自分の名誉と存在を表し、自慢しながら平穩に、贅沢に暮らすことでしょうか？それは神様に喜ばれる人生の優先順位ではありません。

我々に与えられるすべての環境においてまず神の事を、神の国を、そして神様の教会を思う事を！神様は喜んで下さいます。ただ自分だけの人生を満足、幸せ、平穩のために神様が満たし、与え、守って下さったわけではないということです。さらに我々が神の国と神様の栄光のために働き、仕えようとする時、神様は喜んでくださり、むしろ、我々のことまで神様は代わりに働き、見守ってくださるのです。

<統一王になったダビデ王が次二番目にした事>

第二サムエル 9章をみると、ダビデが王になった後、まず神の事を求めた後、もう一つした事が記録されています。第二サムエル9章1節を見て見て下さい。“ダビデが言った。「サウルの家で、まだ生き残っている者はいないか。私はヨナタンのために、その者に恵みを施したい。」”

ダビデが王になった後、二番目にしたことは自分が恵みを受けた人を忘れず覚え、その子孫を探して恵みを施したことでした。7年半の間、続いた戦争によって自分の敵のようなサウル王の家族はみんな死にました。しかし、イスラエルの統一王になったダビデは以前、自分を助けてくれたなくなりましたが、サウルの子ヨナタンとの友情と助けを忘れてずっと覚えていました。そして、その子孫の一人でも残っている人がいればその人に恵みを施したいということがダビデの思いでした。ダビデは自分に悪を行った父サウル王を覚えなくて、自分に恵みを与えたサウルの子ヨナタンをもっと大きく覚えたのです。

ダビデがイスラエルの統一王国の王になった時、サウルの子孫はこれを認めないで反乱を起こしたり、その以前にもサウル王はやきもちながらたびたびダビデを殺そうともしました。ダビデはそんなサウルから逃げて長く異邦の部族にまで逃避しながら“私と死の間は一足だけだ”と思われるほど危機と苦労をしていた者でした。

そういったわけで、王になった後、ダビデはサウルの子孫を最後まで探し、全部殺すこともできました。しかし、ダビデは手にいれた権力と力、成功をそこで使いませんでした。むしろ、王になったダビデは死の危機から自分を助けてくれたサウルの子の一人ヨナタンからの愛と助けを思い出します。たとい、いまヨナタンは亡くなっているが、その子孫にでも恵みを施したかったのです。

このためにダビデのしもべツィバが調べた結果、7年6ヶ月の間、続いた内乱の中で、サウルの子孫は全部亡くなりましたが、ただ一人だけが生き残っていることが分かりました。その人がヨナタンの息子メフィボシェテでした。そのように報告された内容が3節以下の箇所です。“ツィバは王に言った。「まだ、ヨナタンの子で足の不自由な方がおられます。」”唯一生き残されたヨナタンの息子メフィボシェテが5歳の時、乳母（うば）によって逃げているうちに不注意で

両足を怪我してしまいその以来、障害者になったのです。最初そのメフィボシェテはきっとダビデ王が自分を殺すだろうと思って込んで身を隠れていましたが、そのメフィボシェテをダビデは探し、呼び寄せたのです。5節をみてください
“そこでダビデ王は人をやり、ロ・デバルのアミエルの子マキルの家から彼を連れて来させた。サウルの子ヨナタンの子メフィボシェテは、ダビデのところに来て、ひれ伏して礼をした。ダビデは言った。「メフィボシェテか。」彼は答えた。「はい、このしもべです。」)”

続いて9章7節です。“ダビデは言った。「恐れることはない。」”なぜ、メフィボシェテは恐れていたのでしょうか？
ダビデが新しい王になったので、自分のサウル家が今まで苦しめて来た事に捕まえ殺そうとするだろうと思っていたからです。しかし、ダビデ王は7節でこう言います。

“あなたの父ヨナタンのために、あなたに恵みを施したい。あなたの祖父(そふ)サウルの地所(じしょ)を全部あなたに返そう。あなたはいつも私の食卓で食事をしてよい。”

ダビデ自分を殺そうとしたり、ダビデの王権に挑んだ子孫でもあったので、きっと殺されるだろうと恐れていたメフィボシェテでしたが、ダビデはかえて恵みを施しました。それだけではなく、ダビデは以前サウル王の土地所有権まで与え、王宮でダビデと一緒に暮らすようにしてあげたのです。これにたいしてメフィボシェテの反応が8節に書かれています。

“彼は礼をして言った。「このしもべが何者だというので、あなたは、この死んだ犬のような私を顧みてくださるのですか。」”ダビデが王になった後にした二番目の事、それは自分のためより、彼に恵みを与えた人を思い出し、その恵みの負い目を倍に返そうとしたことです。そして自分を殺そうとした敵だったとしても彼は心から赦したのです。

<今日のメッセージのまとめ>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

我々が何か成功した時、もしくは高い地位にいる時、何かを成し遂げた時、問題がなく平穏な時、物事がうまく行っている時、みなさんは何ができるでしょうか？

まず、神の国を、神の教会を考えましょう。自分が成し遂げたこと、自分のすべての財産、自分が得たすべては根本的に自分だけのものではありません。それは神様の国と栄光のため仕える為に主が許して下さった道具である事を覚えましょう。今日ダビデはイスラエルの王になった時、まず神様の宮を考え、神様はこれを喜びとし、ダビデの王権と彼の人生を祝福して下さった事を覚えましょう。これがまさに神様に喜ばされる人生の優先順位であります。

そしてダビデ王は二番目に、自分のためより今まで受けた恵みを忘れないでさらに施す事をしました。

愛する信仰の家族のみなさん、自分の力で今の自分があるように見えますが、我々の背後には我々を愛を持って引っ張ってくださった親がいて、信仰によって導き、祈ってくださり、教えてくださった牧会者や信仰の家族の祈りと愛があるでしょう。今の自分のために後ろで助け、心配してくれたり、愛と恵みを与えてくださった人々を忘れてはいけないと思います。自分が成功し、ものごとがうまく行くなれば、自分がすばらしいからではなく、自分の背後の多くの人々の祈りとサポートと犠牲があったおかげである事を覚え、さらにその愛を分け与える者になりましょう。

学生たちはほかの人に与えるためにもっと熱心に勉強しなければなりません。クリスチャンがこの世、この社会においてもっと成功して多くの人々を助け、与える人にならなければなりません。

今日ダビデのように自分の成功は自分より、さらに神様の国と栄光のためであり、自分より隣人のためであることを覚えましょう。このような信仰と生き方で生きるクリスチャンになりましょう。

もちろん、ダビデは我々が見習うべき絶対的模範にはなりません。たった11章になると、ダビデの犯罪行為が記録されるからです。彼も我々と同じ人間にすぎません。ダビデが時には墮落し、罪を犯してしまう時もありますが、それにして彼の優先順位は今日の我々によい教訓と模範を示してくれます。

神様に喜ばされる人生の優先順位をしっかりと立てて生きることにより、神様の喜びとなる一人一人の人生となりますように祈ります。そして、主からさらなる恵みと祝福をいただくクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますように祝福し、切にお祈り申し上げます。アーメン！！